

こまつな

アブラナ科：中国、日本

栽培暦

月	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業																											

■栽培のポイント

1. 耐暑、耐寒性が強いので、計画的な播種で長期間栽培ができる。
2. 有機質施用と深耕を行い、保水・排水性の良い土をつくる。
3. 新しい種を使い、播種時に十分かん水して一斉に発芽させる。
4. 種が小さく、発芽率が良いので、厚播きにならないように注意する。

■品種・種子量 みすぎ、笑天、わかみなど。a 当り 150~200 ml。

■本畑の準備 アブラナ科の連作にならないよう畑を選ぶ。土壌適応性は比較的広く、酸性にも強いので栽培しやすい。

施肥 生育期間が短いため基肥主体とする。播種予定日の 10~15 日前に完熟堆肥、土壌改良剤を施用後耕うんし、更に基肥を全面散布し、十分耕す。

うねづくり うね幅 130 cm (床幅 100 cm)、高さ 10 cm位の平うねをつくる。

■播種 路地では、霜の心配がなくなる 5 月上旬頃から 9 月一杯まで播種できる。

条間 25 cm の 4 条播きとし、播き幅約 15 cm (くわ幅) の浅い溝をつくる。

播き溝に均一に種を播き、厚さ 0.5 cm位の覆土をする。覆土後は鎮圧し、かん水する。

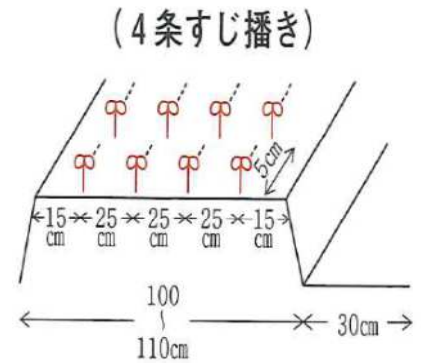
盛夏期の土壌乾燥時は切りわらを薄くかけてから十分かん水する。低温期には、床全体に不織布をべたがけすると発芽が早まり、寒さ防止になる。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	300kg	—kg	成分量
苦土石灰	10	—	窒素 1.6kg
苦土重焼燐	4	—	燐酸 2.3
ホーソ入りそさい2号	10	—	加里 1.3
燐硝安加里 S604 (液肥2号)	—	2 (3)	



■発芽後の管理

間引き 発芽が揃ってきたら混んでいるところを間引き、本葉2~3枚時に株間を4cm位にする。間引きが遅れると、軟弱になり、作業能率も下がるので早めに行う。

追肥 生育が悪いが葉色が出ない場合や生育期間が長い作型で追肥を行う。土壤乾燥時にはかん水を兼ねて、300~500倍の液肥を行うのもよい。

■**病害虫の発生** 病害では、発芽直後に苗立枯病、雨の多い春や秋にはべと病や白さび病が発生する。害虫では、アオムシ、コナガ、ヨトウムシの発生が多いので発生初期の防除を徹底する。また、寒冷しゃや不織布を被覆し、害虫の侵入を防ぐことでも防除できる。

■**収穫・収量** 本葉4~5枚、草丈20~25cmで収穫する。播種から収穫までの日数は、5月播きで40日、6~8月播きで30~35日、9月播きで35~40日位を目安とする。収穫が遅れると大きくなりすぎ、葉色が劣り、繊維質になって食味も悪くなるので若どりを心がける。a当り収量は、100~130kgである。

ちょっと一服

「かぶ」と「だいこん」の違い

「だいこん」も「かぶ」も日本で古くから作られている野菜です。一見して「だいこん」のように見える「かぶ」や、「かぶ」に見える「だいこん」もあります。

普通「だいこん」の葉は表面に細かい毛があってざらざらしていますが「かぶ」の葉は毛がほとんどありません。「だいこん」の花は白色、紫色で、「かぶ」の花は黄色です。葉の欠刻も「だいこん」は深く「かぶ」は浅いのが多い。「だいこん」の種実は3つにわかれた莢の先の部分に種子ができ捻っても莢は割れないが、「かぶ」は莢のまん中の部分にたくさんの種子ができ、捻ると莢がはじけます。染色体数は、かぶn=10、だいこんn=9。